

岡崎市のいちご



ビタミンCが豊富で味、色、香りと三拍子揃っているいちごは、近年、最も消費が伸びた果物の一つです。本来は晩春～初夏が旬ですが、ハウス栽培が盛んになった現在は、夏の暑い時期を除いて年中食べることができるようになりました。

栽培品種

岡崎市内では出荷形態によって、色々な品種が栽培されていますが、共同で規格を揃えて市場へ出荷している、あいち三河農協岡崎市いちご部会では、主に「紅ほっぺ」を栽培し出荷しています。その他、市内では、とちおとめ、章姫等の品種が栽培されています。

○紅ほっぺ・・・果実は長円錐形で大粒になり、果実の中まで赤く、果心部分も赤い。大粒で甘味が強い。岡崎市では栽培品種の大半が紅ほっぺです。

岡崎市のいちご栽培

岡崎市のブランド化推進品目に指定されており、本市は県内で古くからの産地です。

市内のいちご栽培は昭和20年代頃から市場出荷を目的に普及し、昭和30年代頃に本格的なハウス栽培が行われました。その後、昭和40年代～50年代頃にかけて、暖房機の導入や花粉交配用ミツバチの利用（ハウスの中でミツバチが受粉作業を行う）が始まり、また高冷地育苗や電照による促成栽培など栽培技術が改良されてきました。現在は、8月の約1カ月間苗を低温処理する夜冷育苗技術が普及し、超促成栽培が行われ、11月上旬～6月中旬頃の収穫が可能です。実をつけるもとになるウイルスフリー苗（病気にかかっていない苗）は、岡崎市農業支援センターで増殖し、市内生産農家に供給されています。



愛知県いちご連キャラクター
いっちー

栽培地域

矢作、六ツ美、葵、東部地域など

栽培方法

高設栽培と土耕栽培の2種類

- ①高設栽培・・・人の胸位の高さの棚に設置したプランターに苗を植えて栽培します。日陰になる部分が少なく、色むらの無い輝きある実が育ちます。
- ②土耕栽培・・・畑に直接苗を植えて栽培します。大地の栄養をしっかり吸収し、味の濃いいちごが育ちます。

市内生産者の取組み

生産者団体を組織し、品評会や試食即売会などを開催して技術の向上と普及促進に努めています。また、有機質肥料、花粉交配用ミツバチ、天敵昆虫（害虫を食べる昆虫）の利用など、減化学肥料栽培に取り組んでいます。



岡崎産いちご